

# 関西・大阪 文化力会議

主催：(財)大阪21世紀協会

共催：大阪国際フォーラム、(株)大阪国際会議場

協力：(社)企業メセナ協議会

2010.1.28 大阪国際会議場

## 市民、文化人、企業、行政マンら延べ1000人が参加

文化による地域活性化や産業の高付加価値は、国際的な都市競争力の強化には欠かせない。しかし、昨今の国・自治体の大幅な文化事業の見直しは、地域の文化に大きなダメージをもたらそうとしている。そこで大阪21世紀協会は、関西で活躍する文化人、学界、経済界などのオピニオンリーダーやまちづくりに活躍する市民、NPO、メセナ関係者を招いて、緊急の文化会議を開催。関西・大阪が抱える文化的課題を抽出し、文化力向上の方策を探った。



### 文化立都への新たなマイルストーンに

大阪21世紀協会会長 熊谷信昭

文化とは学術・技術・芸術の三術であると、梅棹忠夫氏(国立民族学博物館顧問)が言われています。私の専門分野である科学技術について申しますと、21世紀はハードウェア、ソフトウェアに加えて、ヒューマンウェアが極めて重要です。使いやすさや、環境との調和性、安全性、デザイン性といった意味ですが、その大部分はまだまだ成熟していません。戦後、驚異的な発展を遂げた日本は、世界から尊敬されるどころか、国際社会から基礎研究タダ乗りという恥ずべき非難を浴びま

した。エコノミックアニマルと蔑まれたりもしました。我々はこの屈辱を忘れず、学術、技術、芸術が調和した、ヒューマンウェアに裏付けられた健全な科学技術を創出し、世界から敬愛される国家を志さねばならないと思います。これは地域についても同様です。それぞれの地域が繁栄し、かつ大勢の人々から敬愛されるためには、文化立都を目指さなければなりません。今日はそのことをお互いに確認し、具体的な取り組みを推進するための新たなマイルストーンにしたいと願っています。

関西・大阪の文化をいかに担うか！  
各界のオピニオンリーダー35名が緊急提言！